
第1回清華・京進発展フォーラム

2015年1月28日(水) 清華大学中央本館講義堂

「東アジア文化伝統と現代社会」

【日本側ゲストのご紹介】

千玄室 氏 (茶道裏千家第15代家元)



千玄室 氏 1923年生まれ。哲学博士。文学博士。昭和39年千利休居士15代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成14年嫡男に家元を譲座し、千玄室に改名。

「一盃からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。文化省社会教育審議会委員、中央教育審議会委員等の公職を歴任。

現在の主な役職にユネスコ親善大使、日本・国連親善大使（外務省）、大阪大学大学院客員教授、ハワイ大学教授、財団法人日本国際連合協会会長、社団法人日本馬術連盟会長。

文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE 連邦独立勲章第1級等受章。国内外で名誉市民、名誉博士号を多数受けている。

中西進 氏 （京都芸術大学名誉教授）



中西進 氏 1929年東京生まれ。東京大学大学院博士課程修了、文学博士。富山県高志の国(こしのくに)文学館館長。2014年度文化勲章受章。富山県特別栄誉賞受賞。

在学中、久松潜一に学び、高木市之助、土居光知の学風を慕う。博士論文『万葉集の比較文学的研究』で30代に読売文学賞、日本学士院賞を受賞。以後、比較文学、日本文化の研究で知られ、『源氏物語と白楽天』で大佛次郎賞、『万葉と海彼』で和辻哲郎文化賞。「中西進の万葉こころ旅」100回放送で奈良テレビ放送文化賞、奈良県観光PR大賞特別賞、「万葉みらい塾」で菊池寛賞、ほか京都新聞文化賞、アカデミア賞など受賞。

2004 年文化功労者、2005 年瑞宝重光章。学界では日本学術会議会員、日本比較文学会会長、東アジア比較文化国際会議名誉会長(現在)、全国大学国語国文学会会長(現在)をつとめる他、筑波大学教授、国際日本文化研究センター教授、大阪女子大学学長、京都市立芸術大学学長、池坊短期大学学長などを歴任した。プリンストン大学、トロント大学、カレル大学、サンパウロ大学、在中国日本研究中心、高麗大学ほかの客員教授もつとめ、目下、中国の天津師範大学、復旦大学、鄭州大学、中国社会科学院の客座教授でもある。

主著に『日本の文化構造』『こころの日本文化史』などがあり、著書は『中西進日本文化をよむ』(全6巻)、『中西進万葉論集』(全8巻)、『中西進著作集』(全36巻)に多くがまとめられている。エッセイストとしても知られ、日本ペンクラブ副会長。2007 年以来、世界の宗教的和解を目指すインドの「ナーランダ大学」の復興・創設の賢人会議・理事会メンバー。社団法人日本学基金理事長。

濱本良一 氏 (国際教養大学教授)



濱本良一 氏 1952 年生まれ。東京外国語大学外国語学部中国語科卒業。卒業後、1985 年より読売新聞ジ

ヤカルタ特派員、1987年より同上海特派員、1988年より同北京特派員、1993年より同香港支局長、2001年から2004年まで同中国総局長を歴任。

2004年から2011年まで読売新聞・調査研究本部主任研究員、論説委員として活躍、2007年1月～5月までアメリカカリフォルニア大学バークレー校ジャーナリズム大学院読売講座・非常勤講師を務め、2011年10月に読売新聞を定年により退職。

退職後は中国を中心としたアジアの国際政治を専門領域に、公立法人・国際教養大学の教授をつとめ現在に至る。

著書に『「経済大国」中国はなぜ強硬路線に転じたか』（ミネルヴァ書房、2012年）、『習近平の強権政治で中国はどこへ向かうのか』（ミネルヴァ書房、2014年）、共著『中台危機の構造』（勁草書房、1996年）、『中国は何処に向かう?』（蒼蒼社、2001年）、『グローバル化時代の中国』（日本国際問題研究所、2002年）など多数。訳書『錢其琛回顧録』（東洋書院、2006年）など。